

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-1	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える 新たな道路交通施策に関する研究開発	室蘭工業大学 准教授 有村 幹治	B
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>北海道の農林水産業・観光等を担う「生産空間」では、人口減少によって公共交通や物流の維持が著しく困難化している。本研究は、「生産空間」に住み続けられる道路交通環境を目指し、自動運転や道の駅の活用の実装を含む道路交通施策のあり方について研究開発を行うことで、同様の問題に苦しむ全国他地域への貢献を目指す。</p> <p>&lt;中間評価&gt;</p> <p>新しい道路交通施策評価モデルの検討や社会実験に関連した調査等の成果をあげているものの、多様なテーマの相互関係や全体の中での位置づけが明確でなく、全体としての統一性を欠くという課題がみられることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>個別テーマの中で「自動運転と道の駅」の関係性を明らかにした上で、個々のテーマ間の関連性や全体の中での位置づけを明確にした上で、研究全体の方向性を再考していただきたい。</li> <li>「道の駅」の活用について、道の駅自体が担う役割等を今後どうしていくのかの予測あるいは提言が含まれていないように見えるので、自動運転との関連の中で、「道の駅」の位置付けを明確にしていきたい。</li> <li>関連する各種の道路交通施策のうち、自動運転導入の対象をどこにするのかを明確にして、自動運転の効果を評価する検討を進めていただきたい。</li> <li>研究成果を実際の政策へ活かすため、事前に自治体や交通事業者等へヒヤリングを行う、コンセンサス確保に努めるなど、入念な準備を行っていただきたい。</li> <li>北海道としての課題、その解消方策と全国他地域への適用方策の関係を明確にしつつ、研究していただきたい。</li> </ol>			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。